

クラブチーム情報



秋葉台球技場周辺のボランティア清掃終了後

地域社会貢献から復活を目指す ●湘南フジクラブ

神奈川県湘南フジクラブは東日本クラブ選手権最多出場チームであり、東日本トップクラブ昇格チャンスは何年も逃し、苦難を耐え続けているチームである。そこで現在のチーム状況を紹介します。

5年前までは神奈川県クラブ1部リーグの常勝チームであったが、ライバルチームが追い付け追い越せ、と湘南フジクラブを目標に活動するなか、ここ数年の春季大会は優勝から遠ざかっている。しかし、湘南フジクラブ理念は揺るがない。勝利を目指して、湘南フジファミリーはクラブ仲間とその家族、友達、地域の皆さん、そして行政と連携を常に心

掛け、「明るく、楽しく、前向きに」を合言葉として土曜日のナイター練習に励んでいる。武井GMは言う。若いラグビー仲間を成長させるにはラグビーのプレーだけではなく、ひとりの人間として、節度・規律ある私生活を送ること。苦しい時こそ、辛抱と努力で何事にも達成感を持ちラグビーの良さを学んで欲しい。

武井GMが最近の独り言のように繰り返すのは、ひとりではみんなのために、みんなは勝利のためにだ。

5月3日(ゴミの日)はナイター練習前に恒例の地域社会貢献として、日頃から行政の協力で藤沢市秋葉台球技場(人工芝)をナイター練習場として利用させて頂いている球技場周辺のボランティア清掃を行った。市役所から用意された分別用のビニール袋にクラブ員が日頃の感謝の心でゴミを拾い集めた。常勝チームの復活は地域ボランティア清掃からスタート。現在のチーム強化は新婚の駒本主将を中心に吉本FWリーダー、二宮BKリーダーらがリーダーシップを発揮。湘南フジを長年知る村山村上、荒木、磯崎などもクラブ員の相談役としてチーム強化をサポートしている。一方、若手が新人勧誘プロジェクトで積極的にクラブ増員強化にも取り組んでいる。2年後のクラブ結成30周年を控え、湘南フジクラブはより一層の組織力向上、選手強化、地域ラグビーの普及などに取り組み、湘南地区に新鮮な風を吹きつけ、草ラグビー仲間と共に湘南フジクラブの復活を期待したい。

●クラブ員募集問合せ先
MAIL: info@shonan-fuji.jp
HP: http://www.shonan-fuji.jp/

優勝カップが初めて離島へ ●第26回やんばるセブンス

やんばるセブンスは、平成元年に開催され、本年度26回を迎えた大会である。当時クラブ員が少なかったことから、夏休みで県外から帰省する名護高OBの勧誘を目的に大会がスタートした。初めは、気の合う仲間



開会式の様子

間や市内出身中等、アバウトなチーム分けだったが、5回目以降から同級生や近い年代でのチーム編成となり、各チームでオリジナルジャージを作成して参加するなど、次第にチーム数が増えていった。

予選リーグ
各チーム2試合戦い、得失点差で順位決定

グループA	名護A	名護C	MARINA	北部農林
名護高A			○31-5	○45-0
名護高C			●12-15	○33-31
MARINA	●5-31	○15-12		
北部農林	●0-45	●31-33		

グループB	はんかち	名護B	冬マン	オート
はんかち世代		○31-7	○48-5	
名護高B	●7-31			○28-24
冬マンJAPAN	●5-48			○29-14
オートメイジ		●24-28	●14-29	

グループC	満味	e-life	MOU	IE
満味			○41-0	○28-0
e-life			○28-10	○38-0
MOU	●0-41	●10-28		
IEアイランダーズ	●0-28	●0-38		

グループD	宮古	JAW	よしき
宮古		○28-15	○26-19
JAW	●15-28		○20-15
よしき	●19-26	●15-20	

決勝
[POOL Adult] 宮古 31-7 満味
[POOL Young] 名護高A 41-12 はんかち世代

CLUB TO WATCH

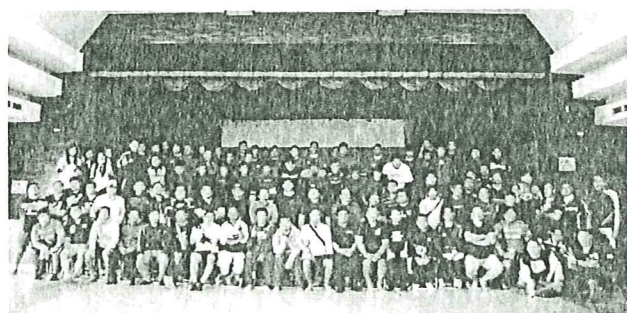
楽しく、強く、かっこよく。

●やんばるクラブ(沖縄)

1980年、名護高校OBのラグビー経験者・未経験者20名前後のメンバーが集い、「楽しく、強く、かっこよく」をモットーにクラブを創設した。立ち上げ当初はなかなか勝てなかったが、現在では県内各大会決勝進出の常連となっている。昨秋に行われた全九州クラブ・実業団大会では沖縄県代表として出場。九州制覇、トップクラブリーグ入りを目標に日々活動を行っている。沖縄県で3番目に発足したクラブチームで、節目の年には県外遠征等、県内外のクラブチームとの交流も盛んに行っている。

創部から30年余り、現在クラブ員は60名を超え、10代から50代まで年齢層も幅広い。福岡サンクスブルースで活躍している濱里三兄弟の次男周作、三男耕平もかつては当クラブに所属しており、彼らのプレーはクラブ員、現役高校生へのいい刺激となっていた。

近年、小学生を対象としたジュニアチームや40歳以上の惑チームを発足させ、世代ごとの活動域を広め、ちびっ子からシニアまで生涯ラグビーが実現できるよう取り組んでおり、ラグビーを通して地域活動への貢献、世代間の交流が図れるよう日々活動している。



やんばるクラブ

すら楽しむ、をモットーに、昼食には手作りの沖縄そばを食し、試合後の懇親会などイベントが充実しているのも特徴で、現役高校生から一般までの交流の場ともなっている。

近年では、名護市内の3つの高校(名護高校・名護商工・北部農林)や伊江島、宮古島などの離島チームも参加し、総勢200名余りが参加する大会となっている。今大会では、宮古島が初優勝し、優勝カップが初めて離島に渡り大いに盛り上がった。

オリンピック競技、ワールドセブンズ、女子の7人制ラグビーが注目される昨今、ラグビーを楽しむをテーマに幅広い世代、地域内外からの参加者拡大も図りながら本大会も日本一の大会を目指しこれからも実施していきたい。将来この大会からオリンピック選手、女子日本代表等が輩出されることも夢である。